

HEART NEWS

大阪市立総合医療センター循環器センター

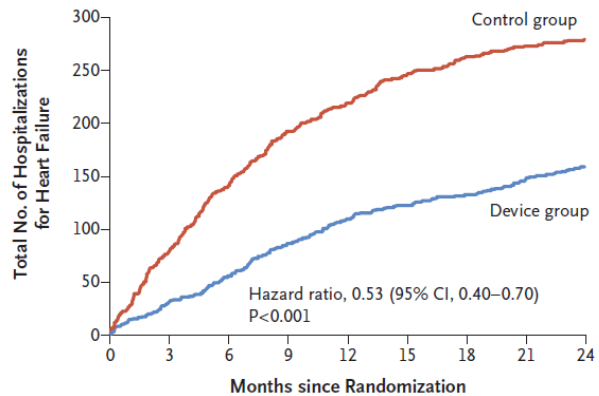
<http://cardiovasc-ocgh.sakura.ne.jp>

Vol. 34

MitraClip® System



A Hospitalization for Heart Failure



経皮的僧帽弁接合修復システム：Mitraclip NT（アボットバスキュラー社製）という僧帽弁逆流に対するカテーテル治療デバイスが本邦においても2018年4月から使用できるようになりました。右下は最近発表されたCOAPT試験（Stone GWら，N Engl J Med. 2018）の結果です。機能性僧帽弁逆流を合併する心不全例における有効性が示されました。手術リスクが高い器質性僧帽弁逆流例のみならず機能性僧帽弁逆流を伴う重症心不全例に対するブレイクスルー的治療となることが期待されており，当院でも導入を急いでおります。

朝夕めっきり冷え込む時候となりましたが、皆さまお元気でお過ごしでしょうか？

先日、さくらホールで、開催されました第20回心臓病懇話会には、多くの先生方にご出席頂き、誠にありがとうございました。

今回は、循環器内科からは、当科で、本年8月から開設しました「PAD・末梢動脈外来」について、心臓血管外科からは、「活動期感染性心内膜炎（僧帽弁）IEに対する自己心膜を用いた 僧帽弁形成術」について掲載します。

今後も循環器内科、心臓血管外科一丸となって皆様のご要望に迅速・確実に応えられるよう取り組んで参りますので、今後ともよろしく申し上げます。

循環器センターのHP (<http://cardiovasc-ocgh.sakura.ne.jp>) も是非閲覧ください。

大阪市立総合医療センター

循環器センター長

循環器内科部長

成子 隆彦

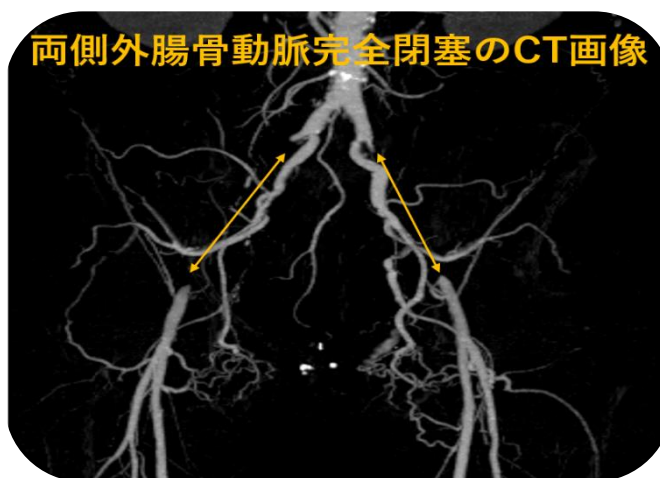
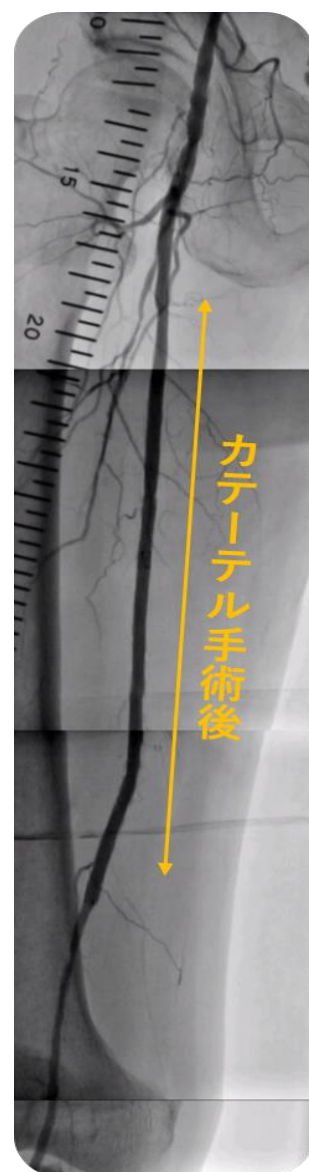
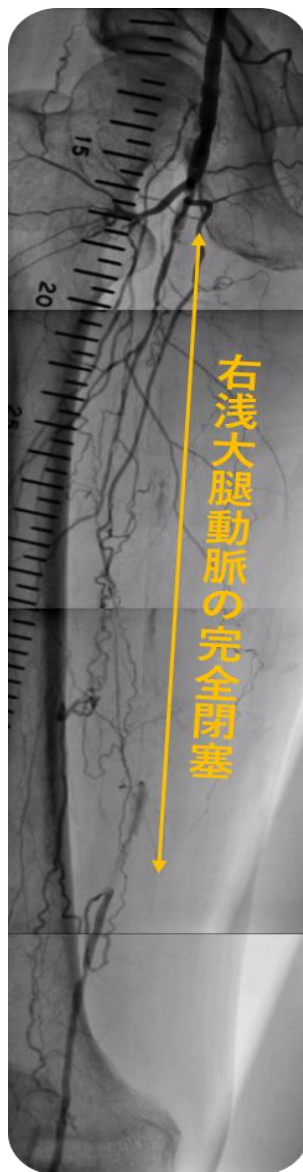
PAD・末梢動脈外来を開設しました！

循環器内科 齋藤 聡男

平成30年8月から末梢動脈疾患を対象とした専門外来「PAD・末梢動脈外来」を開設致しました。

高齢化とともに近年急増している末梢動脈疾患に対して地域の先生方と協力して診断、及びカテーテル手術やバイパス手術を中心とした血行再建・二次予防を行って参りたいと考えております。特に末梢動脈疾患に対するカテーテルによる血行再建手術（EVT）は近年飛躍的な進歩を遂げており、従来は治療が困難であった病変に対しても血行再建が可能になってきています。

今後も地域医療への貢献を努めて参りたいと考えておりますので、ご紹介よろしくお願いたします。



循環器内科外来担当医のご案内

	月	火	水	木	金
午前	阿部	松村	占野	仲川	成子
午後	阿部	松村		仲川	成子
	占野（ペースメーカー）				林

地域初診外来

	月	火	水	木	金
午前	成子	齋藤	阿部	成子	松本
					林(不整脈)
午後		齋藤(末梢動脈)	占野(不整脈)		松本(TAVI)

火曜日午後に、PAD 末梢動脈外来を開設しました。

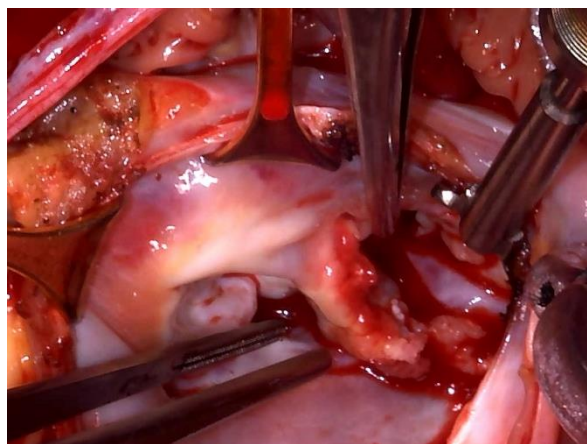
活動期感染性心内膜炎（僧帽弁）IEに対する自己心膜を用いた僧帽弁形成術

心臓血管外科 尾藤 康行

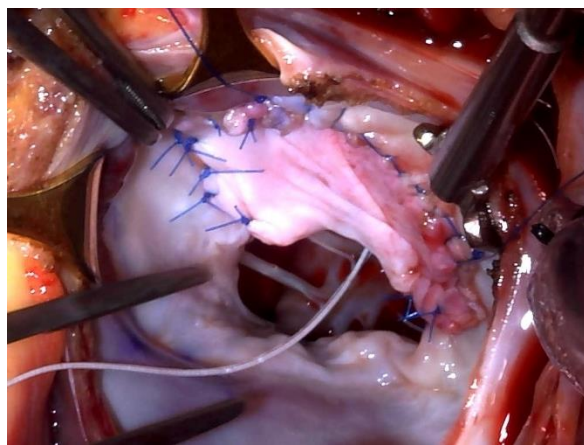
感染性心内膜炎に対する外科治療として人工弁置換術は確立された標準的手術方法ですが、もともと健常な自己心臓弁を人工弁に置換することにはある程度の機能的な損失が伴い、さらに若年患者様の場合には一般に機械弁を選択することとなるため、術後から終生にわたる抗凝固療法を余儀なくされることとなります。われわれはこのような問題に対して、僧帽弁の活動期感染性心内膜炎にあたっては、たとえ広範囲に感染組織の切除が必要な場合においても、自己心膜を使用した弁形成術を施行することにより人工弁置換を回避し、心機能の温存と抗凝固療法が必要ない術後生活を目指して取り組んでおります。最近の自験例を提示いたします。

（症例）45歳，男性。3か月前から歯科治療を契機に断続的に発熱を認め、心エコーにて重症僧帽弁閉鎖不全とvegetationを認めました。僧帽弁は前尖の後交連側（A3）から後交連をまたいで後尖（P3）に及ぶ感染所見を認めました。A3は破壊が進み欠損した状態で、P3も変性し短縮していたため、A3からP3までの範囲の弁尖および腱索をすべて切除して、欠損した範囲に自己心膜を縫着しました。この自己心膜にゴアテックス糸による人工腱索を置いて、人工弁輪を縫着して逆流を制御しました。術後の心エコーでは僧帽弁の逆流を認めず、一定期間の抗生剤加療の後、良好な全身状態で自宅退院となりました。

自己心膜の使用による弁形成術は、遠隔期の自己心膜の変化が課題とされてもおりますが、良好な遠隔成績も報告されており、患者様の術後のQOLを高めることが十分に期待できる手術であると考え今後も取り組んでいきたいと考えております。



高度に破壊された僧帽弁



自己心膜による形成

心臓血管外科外来担当医のご案内

	月	火	水	木	金
午前	青山	佐々木	阪口	佐々木	尾藤
午後	青山	佐々木	阪口	佐々木	尾藤

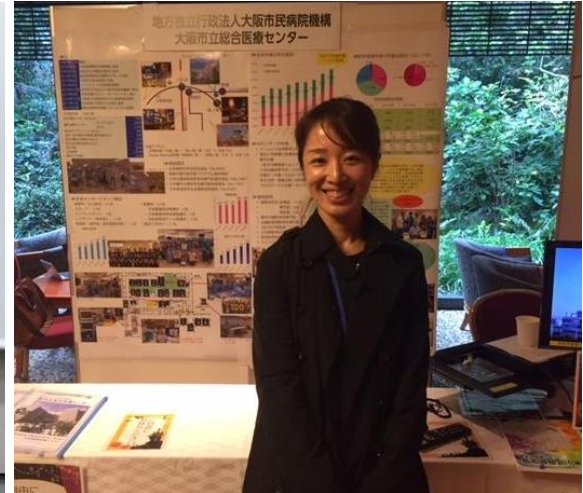
診察予約（地域医療連携室）

TEL:06-6929-3643 FAX:06-6929-0886

平日 8:45～20:00

今号の循環器日記

我々循環器センターでは、臨床・教育・研究のいずれもが欠けることのないように力を入れております。国内学会をはじめ国際学会でも発表を行ったり、教育プログラムの運営を行ったりしています。9月に大阪で開催された日本心臓病学会学術集会では、阿部医師が高齢の重度大動脈弁狭窄症に関するケースセッションで座長を務めました（写真左上）。10月には、当院において『高齢者の循環器治療』をテーマに第20回心臓病懇話会を開催いたしました（写真右上）。お忙しい中ご参集いただきました先生方には心より感謝申し上げます。また、神戸国際会議場で開催された日本超音波医学会地方会では加川医師がTAVIについての講演をいたしました。大変盛況でした（写真左下）。さて、同日偶然に隣のポートピアホテルにおいて日本小児麻酔学会学術集会が開催されており、当院麻酔科のアピールブースが設置されていました。Heart Teamの一員である麻酔科上田医師を配して撮影した記念写真を掲載させていただきました（写真右下）。



当院循環器内科、心臓血管外科は近隣の先生方からの循環器救急疾患をさらに迅速に受けられるようにするため、循環器センター直通電話（ハートライン）を設置しております。

ハートライン（循環器センター直通電話）

06-7662-7979

その他の場合は、御面倒ですが、

06-6929-1221（病院代表）から呼び出して下さい。